

二・八独立宣言74周年記念講演

「二・八独立宣言と東北アジア」

東京女子大学教授 池 明 観

①二・八独立宣言文と

三・一独立宣言文

二・八独立宣言と東北アジアとの問題を考えながら、まず、二つの点を考えました。過ぎし日を顧みれば、1919年から45年までの26年間という歳月を経て、われわれが解放されました。その後、45年から93年までの48年間という歳月がまた過ぎ去ったことを思うと、感無量です。私のような世代は、解放当時の記憶が生々しく残っています。しかし、ここにお来しの留学生諸君においては、その当時の記憶をもっておられる方は皆無であらうと思われまふ。言い換えれば、二・八として三・一を過ぎた先輩たちは困難な経験をされましたが、現在のわれわれはそのような経験がなかったということから、歴史的経験の差が存在することをはじめに痛感いたしました。



つぎに、二・八独立宣言文は李光洙先生が、そして三・一独立宣言文は崔南善先生が起草されました。その方たちの当時の年齢を考えますと、ここにおられます両先生たちと比較して、いろいろな思いに耽る次第です。李光洙先生

は当時27才で、崔南善先生は当時29才でした。また私は、2人の年齢と歩んできた道程の差において、この二つの宣言文の内容と文脈が大変異なっている点を考え、新たに読みなおしてみようと思いました。二・八独立宣言は「朝鮮青年独立団はわが二千万の民族を代表し、正義と自由の勝利を得た世界万国の前にわが独立を期成せんことを宣言する」と始まり、三・一独立宣言は「われわれはここにわが朝鮮が独立国家であることを宣言する」となっています。李光洙先生は、その最初の長編小説である「無情」を執筆された後だったので、たぶんよりリアルであり、当時としてはより韓国的な文を書いたであろうと思われる。二・八独立宣言の内容を見れば、植民地当時の具体的な事実が列挙されています。ここにおいて、日本の統治と差別の状況がどのように行われていたかという事実を、ありありと感ずることが出来ます。

(1) 二・八独立宣言文に見る植民地の形態

このような古典的文章は、たぶん時代と個人の成長過程において異なった読み方もでき、新しいものを発見するようでもあります。今回、私が二・八独立宣言文を読むながら、特に注目している文章が、特にならぬ。それは、「それだけではない。人口過剰の朝鮮に無制限の移民を奨励し、土着のわが民族が海外に流離するのやむなきにいたらしめた」との部分です。ここで、在日同胞のほじくりを見い出すことができ、植民地統治に

は二つの形態があったことを知ることが出来ます。そのひとつは、イギリスがインドで行ったように植民地を貿易基地化した形態です。もうひとつは、植民地地域の国民を抹殺し、そして追放し、その地域に本国人を連れて来て移殖させようとした形態です。このような見地で鑑みれば、わが国の場合は、1910年代の武断統治と土地調査などでわれわれの土地を略奪し、日本人を移民させようとしたことが、二・八独立宣言文にもありありと現われています。その後、二・八と三・一を経て、このような政策は多少修正されましたが、結局当時の人口の15〜20%に及ぶ多くの人たちが海外へと流浪の生活を強いられざるを得なかったのです。この事実を、世界の歴史で、最も残酷な植民地政策であり、アジアにおいて最も多くの民が流されたこととして、その後、文化統治に転換したとはいえず、これは二・八及び三・一独立運動によるわが国民の抵抗により、生物学的抹殺政策、武断政策、追放政策が多少修正され、民族の精気を転換させることによつて、この時期から皇民化時代へと突入して行きました。

(2) 東北アジアの平和

三・一独立宣言文は格調高い文章で、崔南善先生の古典学者としての面目を、如実に表したものとすると名文です。そして、今では現代文に置き換えてよという運動が起きている。私が三・一独立宣言文から特に注目する部分は、「また憤りを含み、怒みをたもっている二千万の民を威力をもって拘束するのは単に東洋

の永久な平和を保障する所以でないばかりでなく、これによつて東洋安危の主軸である4億支那人の日本に対する危猜と猜疑を時とともに濃厚にし、その結果として東洋全局が共倒同亡の悲運を招致することが明らかである」という部分です。二・八独立宣言文にも同じく東洋の平和に對して言及している部分があり、それは「朝鮮民族が無数の革命の乱をおこすとすれば、日本に合併された韓国は却つて東洋平和を乱す過剰となるであろう」と言われています。ここで私が注目したのは、韓国の独立と繁栄を東洋の永久の平和と関連させて考えたという点です。言い換えれば、韓国の独立と繁栄を願うならば、東洋の永久の平和に貢献することと同時に、またしななければならぬと言つて使命感を与えたという点です。

(3) 在日の新しい発想

このような視点において、われわれは二・八及び三・一独立宣言文を再び読まなければならぬであらうと思ひます。特に、在日同胞においては、新しい発想の根源がここにあると思ひます。このようなビジョンと思想と実践において、祖国に寄与し新しい次代を建設する役割を、担わなければならないと思ひます。日本との過去にのみ思ひを止めることなく、東アジア的な発想をもたなければならぬ時代だと思ひます。

私が、日本で生活するようになってから20年という歳月が過ぎ去っていますが、その間私の内面から形成された発想の根源があるとするならば、複眼的なものではないかと思ひます。例えば、韓半島問題を地勢学的観点、または地勢文化的観点、さらに東アジアの観点、つまり東北アジアにおける平和とそれに関連する韓民族の去就問題として見るようになったということです。このような東北アジア

(4) 独立運動前の先覚者に見る東洋平和論

このような点を、今日の時点でも一度検討する意味から、三・一運動前の先覚者たちはどうであったのかという具体的な例を二・三あげてみようと思ひます。皆さんもよくご存知のことと思いますが、1905年に乙巳保護条約が秘密裏に、強制的に締結されるや、その年の11月18日付の「皇城新聞」に張志淵先生は、「是日也 放聲大哭」という文章を掲載しました。その文章は「われわれの東洋は、東洋三國が相互に鼎立し、平穏でなければならぬのに、今まさに保護条約という間違った条件を盾にするとは何たることだ」と始まり、「この条件は、むしろ、われわれ韓国のみならず東洋三國の分裂を意味するものである。この要素が徐々に進展すると思われれば、伊藤博文ノあなたははいか

がなさいますか」と糾弾しています。同じく安重根義士は、形象の露として消える前、獄中で「欧米帝國主義に對して、アジアを共同防衛しなければ、われわれは生きてはいけな」という東洋平和論を叫び続けました。そして「韓・中日の連帯が必要であるにも拘らず、この連帯を破壊する国が日本であり、このような日本の指導者が伊藤博文であるから、私は彼を暗殺せざるを得なかった」と言い、また、彼はその現場で「私は大韓民國の独立と東洋の平和のために命を捧げるのであるから、何の悔いがあるのか」と声高らかに叫びました。

しかし、この講演のために調査を通じ、私はこのようなアジアにおける先駆的な東洋平和論が、歴史的にあまり重要視されていないことや、こうしたことに関する研究を取り組んできた研究機関もまたなかったということを発見しました。今後なおわれわれの先人たちの思想を今日の視点において、再照明する努力をし続けなければならないと考えました。当時、清日・露日戦争すなわち大陸勢力と海洋勢力の歴史的衝突という、きわめて険しい環境の中におかれた韓半島の開発を、押し進めんが為の先覚者の切実なる思いがあったのです。しかし、この気高い東洋平和論は日本のアジア支配によつて露として消え、実現を見るにいたらなかったのです。

(5) 独立運動当時の先人に見る理性的歴史観

では2番目に、三・一独立運動当時にはどのような発想をしたかを探ってみましょう。二・八独立宣言を見れば、「最後に東洋平和の見地から見て、かの最大の脅威であったロシアはすでにその軍事的野心を放棄し、正義と自由のもとで新國家の建設に従事している」といわれており、

「中華民國もまた同様である。さらに今後國際連盟が實現すれば、再び軍國主義的侵略を敢行する強國はなくなるであらう」と続いています。このような視点において、民族が数多くの反乱を起こしたとするならば、日本はより多くの問題が発生し、東洋の平和が揺ぎ乱されると言われています。このことは、1919年当時、ソビエトと國際連盟に對する幻想であったことを窺い知ることが出来ます。より重要な点は、韓半島の平和は大陸勢力の変化と密接な關係があるという地勢学的予言でした。従つて、日本も変化しなければならぬのです。言い換えれば、韓民族の自存・繁榮と東北アジアの平和との相互關係における図式を明確に提示されたのです。

また三・一独立宣言においては「今日われらの朝鮮獨立は朝鮮人をして正當な生榮を遂げしめると同時に、日本をして邪路から出て東洋支持者としての重責を全うさせる事であり、支那をして夢床にても免れない不安恐怖から脱出させることであり、また、東洋平和を重要な一環とする世界平和、人類幸福に必要な段階になるようにすることである。これがどうして微々たる感情上の問題であらうか」と書かれています。ここにおいても韓半島の平和、東北アジア、三國の平和、大陸勢力と海洋勢力間の平和すべてが相關關係にあることを明確に物語っています。事実、日本は大陸から文化・文明を受け継ぎ、自己の平安と平和を達成し、大陸の混乱とは關係なく自己の平和が保証されればよいという島國根性を持つていたので、この様な考えに及び至りませんでした。いわば日本の存在が大陸との利害關係にあるとの事實を忘却し、自己の力さえあれば大陸侵略が可能であると考え、これを遂行したのである。しかし、それは

②アジアの平和

このような歴史観においてわれわれは今日日本を批判し、今後、勸告せねばならないと思ひます。では、今日において苦難の中でも叫んだ先人たちのこの考えをどのように評価し、啓蒙しなければならぬかと言ふ点に對してお話したいと思ひます。この様な考えは、決して起草者、李光洙先生と崔南善先生の個人的発想ではなく、当時の指導的先人たちの理念であり、2000万同胞の念願であつたと思ひます。

(1) 民主体制と自由平和・人權

これに對して三つの事をあげてお話ししようと思ひます。一つ目は、私たちの周辺を顧みているいろいろな問題が残存していますが、大陸勢力と海洋勢力が長い歴史を経て初めて和解の動きを見せているという事実です。この様な時期において私たちがしなければならぬことは、わが民族も、韓半島に平和と統一を植え付けなければならないということです。

私は、21世紀という未来において、日本から釜山、ソウルを経て、さらには、平壤から中国を経由してシベリアを越え、モスクワ、パリに通じるような時代が必ず来なければならない(4面につづく)

楽しく体を動かして
しつかり学ぼう

〈'93年度土曜学級案内〉

新年度の土曜学級はフレッシュなスタートする。

土曜学級は東京外語大朝鮮語学科の熱心な学生たちのボランティアによって支えられている。四年間そのボランティアにたずさわってきてくれた田附(たづけ)さんが四月より講師として本格的に土曜学級の運営に関わることにな

った。

語学はもちろんチャングもこなし朝鮮・韓国語の歴史や事情にも明るく、しかも子どもたちへの愛情にあふれる田附さんには、韓国語の授業の教材、カリキュラムづくりに責任をもっていた。

韓国語の授業にとってもう一つの明るい材料は、日本で初めての子どもむけ韓国語テキストが土曜学級の元講師たちによって出版されることだ。金幸子さん、韓先熙さんの手になる『はじめての韓国語』は、三年間の汗の結晶で、一



冬が去り、春を迎えようとしている今、蒸し暑かった夏の記憶は、遠い過去のことのように。しかし、私にとつての日本の夏は、ただ蒸し暑かっただけのものではない。夏といえばその蒸し暑さとともに、何となくおかしな記憶が思い出されるからだ。

それは、これからの絶対忘れることができないだろう。それは一昨年の夏に起こった。そのとき私は、短

年間かけて系統的に身につくようにつけられている。

優秀なスタッフと教材を駆使してこれまでにまましてしつかりした学習が行われることが期待される。

今年度の土曜学級の屋台骨を支えてきた宋和義さんは子どもたちの心理を適格に見ぬいて楽しい授業をつくりあげてきた。

これまで韓国語の上のクラスと踊を教えたきた李七女さんも、それに加えて二時間目に韓国の童謡・歌と遊戯のクラスを持つ。

李貞雨さんの徹底的に動きまわるアクティブなチャングの授業とあわせて、小さい子どもたちも楽しく体を動かしながら参加できる。

フレッシュでバワフルな講師陣と楽しくしかもしつかり身につく授業を用意して4月からの新しいお友だちの参加を待っている。

来たれ！ 新生土曜学級へ。

期語学研修で、九州の熊本にいた。日本の食事が口に合わないで、いろいろなおかずを韓国から持ってきていた。その中には、韓国人なら当然必需品となるコチュジャンもあった。ところが、このコチュジャンが

コチュジャン物語

白有珍

後で事件を起こすことになろうとは思わなかった。

皆さん御存じのとおり、日本の夏は韓国とは全然違う。適応するのに時間がかかる。食物も同じだろう。ある程度は荷物を開いておけば良かったのに、そんな

ばならないと思います。言うなら「地球村」の時代に三・一独立宣言の精神のように、東洋の平和と世界の平和が直結されなければならないし、この様な意味から21世紀を志向する東北アジアは激動するであろうと若い世代に言いたいと思います。多分、この時は政治的には民主主体制が、経済的には市場経済が、価値観においては自由と平和と人権を中心とした高度な同利性を帯びた社会が形成されるであろうと思います。

(2) 日本とアジア

二つ目は、日本の問題です。一國平和主義という幻想をどのように破るかという問題です。われわれにとつて大陸勢力のような意味で、海洋勢力または東北アジアの平和を考

える時、重要であるがゆえ、この問題を真剣に考えざるを得ません。戦後において、日本は欧米から文化を輸入し、アジアには全く目を向けなかったが、今日に至り再びアジアに目を向け始めました。この様な状況で強国になれば、アジアに侵略して行った昔の

日本を知っている私たちとしては、疑惑の目で見るを得ません。従つて、二・八や三・一当時の苦難に満ちた生活においても、日本の思考から抜け出す事に努力し続けたいわれの先人たちの精神を継承する事が、すなわち東北アジアの平和とわが民族の自存・繁栄につながるという事を心に刻み込まなければならぬと思います。この様にわが民族の自存と繁栄を常に東北アジアの平和と関係づけて考えなければならぬという事は、私たちに与えられた使命であると言えます。

(3) 共同の繁栄の追求

三つ目は、アジアの中の状況を考えてみなければならぬと思います。ここで私は全

国土をアツと言つ間に蹂躪していった王辰倭亂を考えてみたいと思います。この倭亂に對して、日本は自分たちは偉大であり、韓国は軽蔑する対象であると言いましたが、実際はそうではありませんでした。当時の韓国は非武装な儒教的文治国家であり、日本は伝統的な武力国家であったゆえ、そのようにたやすく蹂躪

していったのです。しかし、このような武力で他国を蹂躪した時代はすでに過去の歴史です。さて、韓国だけではなくアジアの諸国は、自前の国力を保有しています。それゆえ日本も現実的な視覚で新しい時代を展望しなければならぬと思います。今がすなわち支配と非支配の関係ではない、対等で同質的な価値観をお互いが交流し、共同の繁栄を追及しなければならぬ時代だと思ひます。このような見地から見ると、われわれの先人たちが約1世紀前に叫んだ図式が真理として今のわれわれに迫って来ているのではないかと思います。繰り返して言うならば、時代の多くの試行錯誤を経て100年が経過した今、東北アジアという問題が私たちの前に迫って来ているのではないかと思います。

③ 韓半島と東北アジアの平和

(1) 同胞のなす課題

最後に、私たちの課題に対していくつかお話しをして結びたいと思います。わが国にやつと新しい文民政権が立つことになりました。この政権に与えられた課題は、先人たちが発想した地勢学的な面からの韓半島と東北アジアの平和はひとつであるという理念を堅持しなければならぬという点です。

私は最近、宮沢首相と短時間ですが会う機会を持つ事ができましたが、その時「東北アジアにおいて本邦の民主国家は日本と韓国だけであるから、今はお互いに手を取り合

この様な不幸であった時代の産物である同胞たちが、新しい時代の新しい役割を担うのではないかと思います。

(2) 今後の在日韓国YMCAの役割

時間の都合上、詳しい説明は省略し、最後に在日同胞とYMCAという問題に対してお話ししたいと思います。

私は、日本が犯した罪惡に對して国内の歴史学者よりも先に立つて批判・追及した日本の歴史学者を高く評価しています。彼等はまた、日本の文化が韓国からきた先人たちが伝へられたと問題を提起し、その結果として日本の朝鮮史研究において決定的な影響を与えました。このように今は在日同胞全体が肯定的な批判と積極的な提案を提示する時代がきたと考えます。繰り返して申し上げますが、韓半島の自存・統一・平和と東北アジアの平和は一つであるという事を提示し、私たちの統一とそれに対する日本の協力を誘導していかなければなりません。もう一度申し上げるならば、このような新しい方向を提示することによって、日本が従来において批判を受けた立場から、転換していかなくてはならないという点を強調しつつ、それに伴う実践運動を展開していかなければならないという事です。

そうした意味からも、在日韓国YMCAこそが、このような方向で在日同胞とわが国民、そして日本人全てと協力し、それを実践していくべき中心団体とならなければならぬと思ひます。この事が20世紀末というこの時点で二・八独立宣言を捉えたこのYMCAに付加された課題であると思ひます。

………

※この文章は、1993年二・八記念式典における池明観先生の韓国語による記念講演を、編集部が日本語に翻訳したものである。

東京内里国際教会

担任牧師 洪 其 构
伝道師 洪 性 完

〒171 杉並区阿佐谷南3-50-5-2F
TEL 03-3392-8131
FAX 03-3392-8124

愛三産業株式会社
白河産業株式会社
株式 濟州カントリー倶楽部

会 長 白 昌 鎬
社 長 白 一 善

本社 〒130 東京都墨田区江東橋4-6-4
ホワイトビル
TEL (03) 3633-7477(代)
FAX (03) 3631-7703

純高麗焼酎 眞露



眞露ジャパン株式会社

代表取締役
金 泰 勲

〒105 東京都港区虎ノ門三丁目8番21号
第33森ビル3階
電話 (03) 3432-1320・8807
FAX (03) 3432-8820